

■ 学校の共通目標

<b>授業作り</b>	<b>重 点</b>	・主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を目指し、児童の思考を深めるために、適切な発問や板書の工夫に取り組む。	<b>最 終 評 価</b>	・ねらいに即した発問、思考ツールを取り入れた板書などに取り組むことができた。今後、より視野を広げ、カリキュラムマネジメントを意識した指導を高めていきたい。
<b>環境作り</b>		・これまで行ってきた対話的な学習を基に、ICTを活用した多様な学習形態の工夫に取り組む。		・1人1台タブレットの先行導入により、多様な学習形態を試すことができた。次年度に向け、さらに活用アイデアを増やし、効果的に取り組んでいくようにする。

■ 学年の取組内容

学年	教科	令和元年度の定着度調査（1学年を除く）や6月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての児童の課題	改善のための取組	追加する取組等（12月）	年度末の取組評価（2月）
1	国語	<b>学</b> 声の大きさを意識して音読したり、話したりするよう取り組んでいる。 <b>学</b> 姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けて、正しい平仮名やカタカナを書けるよう取り組んできた。	・伝える相手を意識して話すことを課題がある。 ・大事なことを落とさずに聞くことに課題がある。	・日直や授業中のスピーチを引き続き取り入れる。 ・家庭学習を計画的に出し、反復練習を行う。 ・促音や拗音を正しく表記できるように、引き続きプリントや宿題で積み重ね取り組む。	・引き続き継続	・スピーチ活動を通して、考えを言語化できるようになった。相手を意識して話す・聞くことができるようになってきた。 ・日記活動を通して自分の考えたことを書くことができるようになってきた。 ・家庭学習に確実に取り組むことで、正しい平仮名、片仮名、漢字の定着を図ることができた。促音や拗音も正しく表すことができるようになった。
	算数	<b>学</b> 10までの加減の計算を積み重ね取り組んでいる。数の概念がまだ理解できない児童へはつまずきにならないように繰り返し指導する。	・計算に時間がかかる児童への効果的な対応を考える。 ・文章問題で何を問われているかを理解できない児童への支援を引き続き行う。	・授業の始めや、家庭学習で計算プリントを取り組ませる。 ・視覚的に分かりやすしたり、個別指導を行ったりする。	・引き続き継続	・繰り返し課題に取り組むことで、基本的な加法や減法が定着した。加法、減法の問題作りもできるようになった。 ・ICT機器を活用して、問題場面を視覚的に提示したり、具体物を用いて説明したりしたことで、より確実な理解につながった。
2	国語	<b>学</b> 話し合い活動を通して、自分の考えを言語化できるようになった。話し合いの機会を多くし、話し手の方を向いて聞くルールを浸透させることにより、相手を意識して話す・聞くことができるようになってきた。 <b>学</b> 吹き出しやワークシートの活用により、登場人物の気持ちを想像したり、文章の順序を理解したりすることができるようになってきた。 <b>学</b> 家庭学習に確実に取り組むことが、正しい平仮名、片仮名、漢字の定着を図ることができた。促音や拗音も正しく表すことができるようになった。	・順序を意識して話したり書いたりする力を育てる必要がある。  ・物語文では、場面の様子に着目して、登場人物の心情や行動を具体的に想像する力を育てる必要がある。	・順序を表す言葉を使って話したり、順序を表す言葉に着目して読んだり、構成カードを用いて書いたりすることで、順序を意識することができるようにする。 ・言葉に着目しながら文章を読み広げ、想像したことを書き込んだり話し合ったりしながら読み深められるよう、工夫する。	・引き続き継続	・書く場面でも、話す場面でも、順序を考えて表現できるようになってきたが個人差は大きい。順序を表す言葉に着目して読む習慣が身に付いてきている。 ・ワークシート等を活用し、想像したことや文章から読み取れる内容を書き込む活動を継続した結果、言葉から楽しく想像しながら読み取る力が身に付いた。
	算数	<b>学</b> 基本的な加法や減法が定着した。 <b>学</b> ICTを活用して、問題場面を視覚的に提示したことが、問題の理解につながった。具体物を用いて説明したことも効果的だった。	・加法、減法の意味を理解し、問題場面や式の意味を理解する力を育てる必要がある。	・具体物の操作や図で表現する活動を通して、加法、減法の意味を理解させる。	・引き続き継続	・具体物の操作により、加法、減法、乗法の意味を理解することができた。計算の習熟に関しては、個人差が見られることが課題である。家庭学習などの取組を工夫しながら習熟を図る。 ・具体物の操作や図で表す活動を通して、問題文にある情報の意味を理解することができた。計算の習熟に関しては、個別指導を行っている。
3	国語	<b>調</b> 全体の正答率が85.1%で、目標値を6.8ポイント上回った。 <b>調</b> <b>学</b> 順序を表す言葉に着目して読む習慣が付いた。書く場面でも、話す場面でも、順序を考えて表現できるようになった結果、学力調査でも「書く能力」が75.7%で、目標値を11.2ポイント上回った。 <b>調</b> 意見を受けて、説明の文章を改善する問題において、目標値を8.1ポイント下回った。	・文頭に続けて内容を記述するという構文上の必要事項を考えながら記述する能力を育成する必要がある。  ・質問の意味及び意図を洞察する力に基づいて適切に答える内容を導く能力、及び構文上の必要事項を考えながら記述する能力を育成する必要がある。	・総合的な学習の時間と関連させた教科横断的な指導を意識し、情報の整理・分析及び、まとめ・表現の活動を通して、目的を明確にした文章を書く経験を積めるようにする。	・引き続き継続	・相手の意見を受けてまとめたり、意見を書く練習をしたりすることで、書き方の基礎が身に付いてきた。 ・特別活動や総合的な学習の時間において、現実の問題解決の過程の中で話を聞いたり、自分の考えを書いたりする活動を通して、目的を明確にした文章を意識できるようになってきた。
	算数	<b>調</b> 全体の正答率が77.2%で、目標値を3.7ポイント上回った。すべての項目で目標値に達している。 <b>調</b> <b>学</b> 具体物の操作や図で表す活動を通して、情報の意味を理解することができるようになった結果、学力調査でも「数学的な考え方」が71.7%で、目標値を8.8ポイント上回った。 <b>調</b> 2けた+2けた=3けた(繰り上がり2回)の計算において、目標値を14.67ポイント下回った。 <b>調</b> 数直線の読み取りにおいて目標値を15.6ポイント下回った。	・数直線の1目盛りの大きさを考え、把握した上で、それを基に数を読み取る技能を指導する必要がある。 ・2けた以上の計算において、繰り上がりを確実に捉え、正しく計算を進める技能を指導する必要がある。	・図や筆算の式を丁寧に書くことの意味や、効果を明確にした上でノート指導を行う。	・引き続き継続	・図や式を活用して、考えを伝え合う経験を積ませたことで積ませたことで数直線の表す意味を考えながら読み取ることができるようになってきた。引き続き取り組み、習熟を図る。 ・2けた以上の計算では、繰り上がりの数字の書き方を徹底してことで、計算のミスが大幅に改善された。
4	国語	<b>調</b> 全体の正答率が71.4%で、目標値を0.3ポイント上回った。特に「話す・聞く能力」が86.7%で、目標値を5.0ポイント上回った。 <b>調</b> 国語辞典の使い方において目標値を17.8ポイント下回った。 <b>調</b> 書くこととするの中心を明確にして文章を書くことにおいて目標値を10ポイント下回った。	・国語辞典で調べる際に必要な五十音順の配列を十分に理解し、様々な条件の中で活用する力を育成しなければならぬ。  ・日頃から、書くこととする内容に対して根拠や理由を挙げたり、分かりやすく説明するための事例を挙げたりする練習を積ませることが大切である。	・国語のモジュール学習において、計画的に辞書引きの活動を取り入れ、使い方に慣れさせると共に、国語に限らず、日常的に辞書を活用することで習熟を図る。  ・特別活動、行事、総合的な学習の時間等と関連させ、教科横断的な指導を意識し、目的を明確にした文章を書く活動を取り入れる。	・引き続き継続	・国語辞典を常時備えることで、多様な場面で自主的に国語辞典を活用する場面が見られるようになってきた。コロナ禍により実施困難だった国語のモジュール学習等を計画的に実施することで、さらに習熟させていく。 ・国語の授業では、理由を明らかにしたり例を挙げて説明したりして書く学習に繰り返し取り組み、互いに読み合うことで、文章のよさを見付けることができるようになった。教科横断的な視点で活用場面を設定することで、更なる向上につなげたい。

	算数	<p>調全体の正答率が 68.9%で、目標値を 0.4 ポイント下回った。</p> <p>調学図や言葉を使っの説明を重視した指導を行ってきたことで数学的用語や式の意味などの理解が深まり、学力調査でも「数量や図形についての知識・理解」が 75.8%で、目標値を 1.4 ポイント上回った。</p> <p>調余りの処理に気を付けて、列の数と一番後ろの列の人数を求める問題において、目標値を 16.7 ポイント下回った。</p> <p>調（ ）を用いて 1 つの式に表した 3 つの数の乗法について、式の意味を場面と結びつけて説明する問題において、目標値を 12.2 ポイント下回った。</p>	<p>・除法では商は何を表し、余りは何を表しているのかを、十分に理解できるよう指導する必要がある。</p> <p>・場面を図を表し、図と式を関連付けて説明する能力の育成が必要である。</p>	<p>・除法の文章題では図を使った説明を取り入れ、十分に理解させるようにする。</p> <p>・場面を図を表し、言葉だけのやりとりではなく、式、図、言葉に関連させながら発表させるような活動を取り入れる。</p>	・引き続き継続	<p>・デジタル教科書等の ICT 機器を活用し、教師が児童に問題を提示する際などに図を分かりやすく示すことができた。</p> <p>・小さいホワイトボードを活用することで発表する力が高まった。また、発表を聞いている児童の理解も高まった。</p>
	国語	<p>調全体の正答率が 83.5%で、目標値を 11.7 ポイント上回った。すべての項目で目標値に達しており、中でも、「読む能力」が 89.3%で、目標値を 16.8 ポイント上回った。</p> <p>調既習の漢字について目標値を 3.2 ポイント下回った。</p>	・漢字などの既習事項の定着について個別に指導が必要である。	・特別活動、行事、総合的な学習の時間等と関連させ、教科横断的な指導を意識し、相手意識をもって正しく文章を書く活動を取り入れ、既習の漢字についての習熟を図る。	・引き続き継続	<p>・様々な教科で相手意識や目的意識をもって書く活動に取り組んだことにより、場に応じた適切な表現ができるようになった。</p> <p>・漢字学習については、繰り返し何度も小テストや確認テストを行い、定着につなげることができた。</p>
5	算数	<p>調全体の正答率が 76.4%で、目標値を 8.7 ポイント上回った。すべての項目で目標値に達しており、</p> <p>調学数学用語を意識して使うよう投げ掛けたり、何気なく使っている数学用語の意味について言語化したりする場面を意図的に取り入れることで、単に解き方だけでなく意味を理解することができるようになってきており、学力調査でも「数学的な考え方」が 72.8%で、目標値を 10.9 ポイント上回った。</p> <p>調概数や、ひし形の作図において目標値をやや下回った。</p>	・四捨五入や図形の知識などの既習事項の定着について、個別に指導が必要である。	・算数習熟度別指導において必要に応じて、既習事項を繰り返したり、立ち返ったりする指導を取り入れる。	・引き続き継続	<p>・習熟度によって、算数用語を復習するところから学習したり、応用問題に多く取り組んだり、児童の実態に応じた指導を行ったことにより、個々の課題の克服につながった。</p> <p>・作図は、手先の器用さや慣れが大切なので、これからも適宜、行っていく。</p> <p>・数直線や図などを使って自分の考えを説明する活動を多く取り入れたことが、数学的な考え方をさらに伸ばすことにつながった。</p>
	国語	<p>調全体の正答率が 70.4%で、目標値を 0.6 ポイント上回った。特に「話す・聞く能力」が 82.4%で、目標値を 7.4 ポイント上回った。</p> <p>調既習の漢字について目標値を 17.7 ポイント下回った。</p> <p>調2段落構成で文章を書くことについて目標値を 12.3 ポイント下回った。</p>	<p>・漢字などの既習事項の定着について再度指導が必要である。</p> <p>・「段落」の定義を正しく理解させた上で、自分の考えを分かりやすく効果的に書いたり、意見と理由を区別して書いたりする力を育成する必要がある。</p>	<p>・個の課題に応じた家庭学習の工夫を行う。</p> <p>・特別活動、行事、総合的な学習の時間等と関連させ、教科横断的な指導を意識し、相手意識をもって正しく文章を書く活動を取り入れ、既習の漢字についての習熟を図る。</p>	・引き続き継続	<p>・他教科との関連付けをし、教科横断的な指導を続けてきたことで、正しく文章を書けるようになった。</p> <p>・漢字学習については、1人1台タブレットを活用して、個々に応じて取り組むことができた。</p>
6	算数	<p>調全体の正答率が 58.9%で、目標値を 1.4 ポイント下回った。</p> <p>調学図や文を使って説明する場面を行うことで操作と式を結び付けて考えることができるようになってきた、学力調査でも「数学的な考え方」については 48.7%で、目標値を 1.0 ポイント上回った。</p> <p>調小数第一位×小数第一位（純小数同士の乗法）の計算について、目標値を 13.2 ポイント下回った。</p> <p>調直方体の水そうの容積を求める式（単位換算あり）について、目標値を 13.1 ポイント下回った。</p>	<p>・小数点の位置や、計算の際の移動の仕方の理解について、再度確認が必要である。</p> <p>・容積や単位の換算について、再度確認が必要である。</p> <p>・計算技能については、個々の児童のつまずきの原因を探り、個に応じた指導を行うことが必要である。</p>	<p>・算数習熟度別指導において必要に応じて、既習事項を繰り返したり、立ち返ったりする指導を取り入れる。</p> <p>・個の課題に応じた家庭学習の工夫を行う。</p>	・引き続き継続	<p>・習熟度によって、小数点の位置や、計算の際の移動の仕方のところから学習し、児童の実態に応じた指導を行った。</p> <p>・1人1台タブレットを活用して、どの計算問題が苦手であるかをあらいだし、個々に応じてその課題に対して取り組むことができた。</p>
	音楽	<p>学グループでの活動や発表を通して表現の工夫や良さに気付き、自分の表現を豊かにしていくことにつながった。</p>	・自分の思いや意図を根拠をもって伝えたり、自信をもって表現したりすることが、苦手な児童が見られる。	・一人一人が学習の見通しをもち、互いの表現を認め合えるような学習を意識して行う。自他の違いや共通点に気付き、それを自分の表現につなげられるよう、声掛けする。	・引き続き継続	<p>・単元のゴールの視覚化や、創作物の紹介、児童への声掛けを行い、自信をもって表現する活動を行うことができた。課題として、限られた音楽活動の中での評価の充実を図り、一人一人の児童の活動の価値付けをしていく。</p>
	図工	<p>学鑑賞のポイントをおさえ、よさや違いを感じさせる場面を増やすことにより、個人の表現にいかせるようになってきた。</p>	・自分に自信がもてず、根気強く活動に取り組めない児童が見られる。	・根気のない児童に声を掛け意欲付けをしたり、教材等の工夫で興味・関心を引き付けたりするなど個に応じた指導を取り入れる。	・引き続き継続	<p>・クロッキーや基本的な技能の練習することにより、自信をもって活動できるようにした。お互いの作品を見合う機会を増やして発想力を育むようにし、創作活動につなげることができた。</p>
	特支	<p>学健全育成委員会が中心となり、児童の実態や対応についての情報共有ができた。</p> <p>学必要に応じて対策会議を開催することにより、対応が迅速になった。</p>	・今年度、組織やその構成メンバーの変更があったため、児童への十分な支援体制を充実させるために、全体での情報の共有がひつようである。	・生活指導部を中心に、昨年度、健全育成委員会が取り組んでいた内容を把握し、組織全体で各児童に必要な支援体制を確認する。	・引き続き継続	<p>・生活指導部内での役割分担や特別支援コーディネーターと連携をとることによって、児童に必要な支援をすることができた。</p>

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は 2 ページ以上となってもよい。